



掲示板 第14号

巻頭言にかえて

報告	全国の動き	1
報告	千葉県の動き	2
	高知に行ってきました!	3
	研修会報告	4
	支援センター便り・公開講座報告	4
	こんにちは!家族会	5
	VAIC 報告会	6
インフォメーション		7
		8



千葉リハ高次脳機能障害支援センターが開設しました

千葉県千葉リハビリテーションセンター

高次脳機能障害支援センター センター長 太田 令子

すること・学ぶこと・健康でいること・人権が尊重されること等、自分らしさを大切にして生きていくためにたくさんの人たちの知恵を借りたり協力を得て生きています。とくに障害を持つ人たちのリハビリテーションは、多岐に亘る領域の人たちが障害の特性や当事者・家族の思いを共有しながら当事者のニーズを実現するために連携しあって支援することになります。

高次脳機能障害は障害特性があまり知られていないだけに、当事者ニーズの把握が難しく、連携が困難になることが多々あります。高次脳機能障害支援センターは、力を出し合って誰もが住みやすい社会づくりをしたいと願っている人たちの思いが、うまく高次脳機能障害を持つ当事者に届くようにすることが大切な仕事だと考えています。

写真のようなパンフレットを作成して、千葉リハ高次脳機能障害支援センター開設のスタートを切りました。



平成23年4月、千葉リハビリテーションセンター内に高次脳機能障害支援センターが開設しました。私たちは、働くこと・生活



平成23年度

■第1回 高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

開催日 平成23年7月5日(火)

場所 国立障害者リハビリテーションセンター 学院6階

今回、広島県の支援拠点機関が中心に「就労支援」をメインテーマとしたプログラムで行われた。広島県より、他県との就労支援の連携事例報告とその事例に対する島根県、山口県からの報告があった。事例は、「他県でリハビリを受け、その後就労が難しく地元県に戻り周囲の支援を受けながら生活をされている方」、「リハビリ後、地元に戻り支援機関も変更したが、生活基盤が不安定となり、就職活動をするのに2つの県を歩き来している方」であった。

この報告は、他県の取組みや仕組みや、地域性を生かした支援の大切さを学ぶことができた。地域性を生かすためにはエリアだけでなく、住民の暮らし、文化、歴史といったものを含んだものであり、地域づくりに欠かせない視点であろう。また、あちこちと支援機関が増える当事者については、相談できる場があること自体が大きな役割であるという視点で見ること一つであることを学んだ。その他、事例と同じような方の支援を経験しているコーディネーターが結構いることも興味深く感じた。

また、架空事例をもとにグループ討議も行われた。就労に直接関係する支援だけでなく、生活の安定、家族支援、など暮らしを支える体制やネットワーク作り、制度活用などを重視する意見が多かった。うまく表現できないが、個性はあるものの、就労支援のポイント、就労支援を展開する流れなどにつながるヒントが皆の意見の中にあるように思えた。

その他、精神障害者保健福祉手帳の診断書様式が更新され、病名の欄(主たる精神障害)に「高次脳機能障害」との記載で認められることになった。

また、小児期発症の高次脳機能障害支援実態調査について、当センター太田から中間報告がされた。モデル事業からの啓発等による年齢層や支援開始までの期間などの変化や発症時年齢と原疾患、障害など報告があった。

私にとって、この会議は、顔を合わせてお互いの取組や状況を直接伝えあえる有意義な機会となっている。そして、「みんな、すごいなあ」と良い刺激を受けられる場でもある。

地域連携部 森戸

■第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会

開催日 平成23年7月6日(水)

場所 国立障害者リハビリテーションセンター 学院6階

国立障害者リハビリテーションセンターにおいて、平成二十三年度第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会が開催されました。厚生労働省障害保健福祉部企画課課長補佐から、開催にあたり昨年六月時点で全国において高次脳機能障害支援拠点の設置完了の報告がありました。また本格的な運営は来年度以降になりますが、今年十月頃からは国立障害者リハビリテーションセンター内に高次脳機能障害情報・支援センター(仮称)が設置され、新たな情報発信源としてサービスが期待されます。

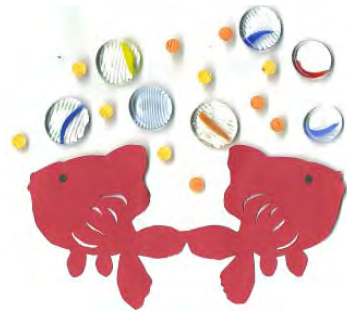
他、新たなサービスに関する情報としまして精神障害者福祉手帳の障害等級の判定基準の一部改正に伴い、高次脳機能障害が加わったことが報告され、これにより障害福祉サービスがさらに利用しやすくなることが期待されます。

また今回は各都道府県の委員及びオブザーバーが参加し、各地域の学識経験者等が中心に報告がありました。本県におきましても高次脳機能障害支援センター太田支援センター長から事業内容の説明があり、本年度四月から高次脳機能障害支援センターが千葉リハビリテーションセンター内に設置され、社会適応における高次脳機能障害支援の方向性も示されました。

今回は震災後の初めての協議会でしたので、震災関係の報告等がありました。福島県の委員からは役場機能が失われ、また支援者もバラバラになり、当事者が止むを得ず入院や施設入所になっている現状の報告がありました。現在は、全国から福島への支援の手が差し伸べられています。まだまだ支援が足りない状況です。今後も引き続き被災地への動向は注目する必要があります。関係機関の方々のみならず、当事者、御家族の皆様もさらに御関心をもって頂きますよう、今後も御理解と御協力よろしくお願い致します。

千葉県障害福祉課 精神保健福祉推進室 猿田

全国の動き



■高次脳機能障害支援

ネットワーク担当者会議報告

千葉県では、千葉リハビリテーションセンターが県支援拠点機関として、旭神経内科リハビリテーション病院が地域支援拠点機関として指定されております。

平成23年6月14日、千葉県と三つの拠点機関とで高次脳機能障害支援ネットワーク担当者会議が開催されましたので会議の概要について、報告いたします。

まず、各拠点機関のデータ登録については、実態把握を確実にを行う事は重要であることから、データの取り方を今後検討し、進めて行くことになりました。

次に高次脳機能障害支援の課題について検討され、就労支援は共通の課題であり、抱えている課題については、今後ワーキンググループにより検討を進めて行くことが確認されました。

最後に当センターから、社会資源情報を全国規模で得られる体制づくり(情報支援マップ作成事業)を実施するため、事業への協力を各拠点機関へ依頼しました。

地域連携部 大塚

■平成23年度第1回高次脳機能障害者

支援情報マップ作成事業企画会議

日時	平成23年7月28日(木)
場所	大宮ソニックスティ会議室
出席者	委員(9名)、損保協会、事務局

この事業は、「当事者や家族にとって使いやすい情報源がほしい」という支援ニーズと日本損害保険協会の「当事者家族のニーズ達成を目的とした支援情報ツール作成への助成」の話がマッチしたことをきっかけに動き出しました。支援機関である拠点機関も同じように「ニーズ支援のために活用できるツールが必要」という声もあり、千葉リハから全国のいくつかの支援拠点機関ブロック統括の方々や学識経験者等と呼ばびかけ、今回の「支援情報マップ作成の事業」を実施することと致しました。これは3年間の研究事業として計画しており、具体的な進め方は企画会議やワーキング会議で話し合いを重ねていく予定です。企画委員を始め、ワーキングメンバーには支援をする側だけでなく家族会の方の参加もいただいています。

具体的にどのような支援情報マップを作ろうとしているのだろうか?という方向性については①専門的な知識を持たなくても利用ができるわかりやすい項目立て②ナビゲーション機能を有し、当事者・家族が支援者とともに利用できることで自らのニーズを可視化確認したり自分が必要とする情報や機関にたどり着くまでの気持ちや判断の確認③項目に分類された機関の支援内容の紹介といったデータベース機能、これら三点を念頭において研究を進めていく予定です。

第一研究で「有効な支援情報アクセス家庭の枠組み作り」、第二研究で「情報マップの資源調査」、最終研究で「モデルとしてポータルデザインを作成し、ホームページ掲載による利便性や有効性の検証」などを行い、広く活用いただけるようなものを目指します。

第一回目の企画会議では事務局の案に対し、各委員からの活発な意見がありました。印刷物でも発行するのか?分野別に機関名や連絡先が掲載するだけでなく、どんなサービスを提供できるかなど具体的な情報提供も併せていかないと活用されないのでは?など、各委員からさまざまな視点を持ったアドバイスをいただきました。今後、この企画会議の意見をもとに、ワーキングで実際に作業を進めていくこととなります。

また、この情報マップが完成したら、今年度設置が予定されている国立障害者リハビリテーションセンターの高次脳機能障害情報センターにもリンクできるように相談をしていきたいとも考えています。

この事業は、スタートしたばかりです。今後ワーキングや委員会の報告を行っていきますので、よろしく願います。

地域連携部 森戸





高知ハビリテーリングセンター



前列中央 上田センター長・ハビリ職員の方左3名



桂浜



坂本龍馬の生地で賑わっている高知。高次脳機能障害支援普及事業支援拠点支援コーディネーター4名)となつている高知ハビリテーリングセンターにお邪魔してきました。

センターは日中活動の場として自立訓練(機能訓練・生活訓練)、生活介護、就労継続B、就労移行がありグループホーム、ケアホームの住まいの事業も行っています。新たに能力を獲得するという意味でリハビリテーションではなく、「ハビリテーリング」と施設名の由来を説明してくれた上田真弓センター長。「高知の福祉を変えたい!」と熱く語る姿は坂本龍馬に重なる心意気を持った方でした。規模は小さい施設と言われていましたが、ゆったりとした空気の中、職員の方と上田センター長の大きなエネルギーが満ちているところでした。関東にいらしたときは、千葉リハの高次脳機能障害支援センターに是非お立ち下さい。

高次脳機能障害支援センター 阿部・山崎

■ 平成23年度
高次脳機能障害支援事業関係職員研修会報告

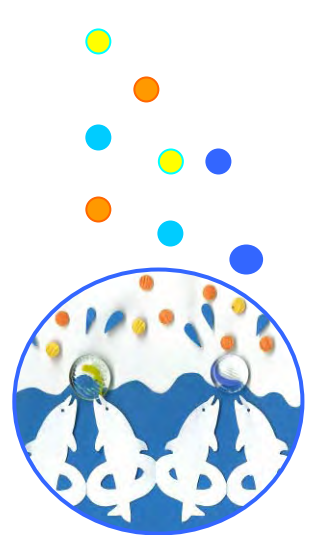
【会場】 国立障害者リハビリテーションセンター
【期間】 平成23年7月6日(水)〜7月8日(金)
【内容】

1. 障害者自立支援法について(障害者自立支援法と高次脳機能障害)
2. 高次脳機能障害支援普及事業について
3. 医学的リハビリテーション:アセスメント
4. 就労支援の実際
5. 高次脳機能障害地域支援ネットワーク
6. 心理療法
7. 生活訓練・職能訓練の実際と支援のあり方
8. 家族支援について
9. 高次脳機能障害の精神症状

右記の研修は毎年開催されており、全国から約200名の参加者が集まります。参加者の職種は医療・福祉関係者から行政の方まで様々です。研修の内容は障害者自立支援法や家族支援、医学的評価・訓練から生活・就学就労に至るまで全体的に網羅されていました。

テーマは様々でしたが、講師の先生方の多くが出されていたキーワードがありました。それは「連続した支援」と「家族支援」だったように思います。

「連続した支援」については、まず診断を受けること、そしてその後の支援が継続していくことが重要であるというお話がありました。



「診断・訓練を受けていない人」や「支援が途中で途切れてしまった人」の中には家庭・社会生活の中での失敗体験が積み重なり、行動障害が顕在化してしまうケースがあるようです。このような現状から、全国の中では三重県のような包括的な支援システムを作っていく取組みが始まっています。千葉県も今年四月から高次脳機能障害支援センターが開設されました。支援が途切れてしまうことにより家庭や社会で苦しむ方が一人でも減るよう活動していけたらと思います。

「家族支援」については、「当事者のための家族支援」と同時に「家族のための家族支援」が必要であるというお話がありました。「家族のための家族支援」とは「家族を頑張らせるためではなく、家族が元気になるために行う支援」のことです。ご家族は様々な役割を求められ、多くのストレスを抱えていることが考えられます。ご家族が「見えない」ことで抱えている不安感に対して「いつ何をどうしたらよいか」「誰に相談すればよいか」等を視覚的な図にして「見える」ようにしていくこと、ご家族の今持っている力に焦点を当ててエンパワーメントしていくことが支援のポイントとなるようです。

具体的な話が多く取り込まれており基本的な知識や経験を学べるとともに、今現在の問題点や提言を聞くことができる貴重な研修でした。

高次脳機能障害支援センター

武藤



高次脳機能障害支援センター開設にあたり、千葉県内の家族会の皆様と支援センターの顔合わせを兼ねて打合せを行いました。県内4家族会の代表者参加、ありがとうございました。参加された家族会の世話人 角田様から感想をいただきました。



4月26日(火) 高次脳機能障害支援センター(以下支援センター)発足に伴って、新しい支援センターの全職員と県内4家族会の主だった人達による打ち合わせが行われました。

打ち合わせの目的は、支援センターの説明と家族会の要望などについて相互に話し合い、理解を深めることです。

最初に支援センターから「当事者の適応能力を高める」「環境調整による適応状態を作る」「支援体制を確立する」の役割や、費用も「大幅増の予算が認められスタッフも12人と人間的に充実が図られたこと」などが説明されました。家族会からは「当事者の日中活動への企画段階からの参画」「家族会で企画する行事(講演会の講師の選定、情報等)に関する情報提供」「家族会が行う県への要望等政策提言への助言」「新しく高次脳機能障害となった当事者・家族と、埋もれたままになっている当事者・家族の掘り起こしと支援」等が要望されました。

充実したスタッフとその即応力・機動力が、県内の他の支援拠点機関との協調の下に高次脳機能障害者の支援事業に一層の進展をもたらすことを期待したいと思います。

ちは高次脳機能障害者と家族の会
世話人 角田義規

第11回千葉リハ公開講座報告



右から 南房総家族会 石黒様 千葉リハ 太田

開催日 平成23年7月9日(土)
場所 千葉リハ大ホール

公開講座では、高次脳機能障害支援センターの紹介や当事者活動の喫茶「ぷう」などがありました。

皆様の協力のもと、多くの方に参加いただき、ありがとうございました。

また今回は、南房総高次脳機能障害家族会から甲冑展示の協力を得、当日、玄関に飾らせていただきました。この甲冑づくりはシンプルな作業で大掛かりな道具がいらないそうで、当事者の社会復帰とリハビリに「甲冑づくり」が有効と気がつき、作成をはじめられたそうで、各種イベントで甲冑を展示販売しながら、一般の方へ高次脳機能障害への啓発も行っているらしいです。

勇壮な甲冑が2体、玄関に飾らせていただき、「すごい」「これ、作ったのですか」など多くの声があり、来場された皆さんに見て楽しんでいただきました。

南房総高次脳機能障害家族会の皆様、ありがとうございました。

地域連携部 森戸

喫茶ぷう OPEN!



7月9日(土)に『若者の会』による「喫茶コーナーぷう」が開店しました。若者の会は、高次脳機能障害を持つ若者が定期的に集まって交流する会です。夏の公開講座のときに喫茶コーナーを運営しており、今年で8回目になります。今年は、売上金を東日本大震災の義援金にするという案が参加者から出されました。皆でメニューを考えたり、コーヒー作りの練習をしたりして、お店の準備をしました。当日、参加者は「いらつしやいませ!」と元気よく挨拶して、笑顔で接客をしていました。喫茶コーナーでコーヒーを片手にのんびりと休憩する方や、参加者と楽しそうに会話をすることも多かったと思います。暑い夏の日には、ひとときの憩いの場となっていました。

高次脳機能障害支援センター 津田



こんにちは!家族会

東 葛 菜 の 花

高次脳機能障害者と家族の会



東葛地域に住む当事者と
家族が活動しています。
例会：毎月第4日曜日 午後
小集団活動《菜の花チア》
：毎週火曜日 午後

今号から千葉県内の家族会を紹介するコーナーが始まります。

家族会が発足した平成十七年十月には参加家族が十一でした。それが現在では四十四家族となり、賛助会員は八十を超える団体となりました。

家族会主催で六月に講演会をもつことも恒例となりました。過去には千葉リハの太田令子先生・慈恵医大病院の橋本圭司先生や靱間剛先生にご講演いただきました。今年は帝京平成大学の中島恵子先生をお迎えしました。高次脳機能障害の症状についての解説と、「認知リハビリテーションは本人のやる気と、家族のやる気が大切」「目標を明確にする、記録をとる、当事者の回りの意識を変えることも重要」と力説されました。

続いてのパネルディスカッション『今、私たちが困っている事、言いたい事』では、当事者三名が悩みを話しました。*何度も同じ事を聞いたりする。*道に迷い、不審者に見られたことも。*外面では障害者だとわからない。*就労訓練に通っているが、役立っているのかわからない。

などの悩みがでました。

中島先生からは「写真を利用したり、メモを使うことの重要性。自分で努力しないと、改善できない部分もあります」とアドバイスを戴きました。

当事者の方々が勇気を持って壇上へ上がって話したことに大きな拍手が送られました。

写真は、右から中島先生・生活クラブ風の村まんでん柏の宮城さん(コーディネーター)・パネラーの当事者三名



今年度の活動と予定

- 4月：総会・コンサート
- 5月：バーベキュー
- 6月：講演会
- 7月：共想法(コミュニケーション)
- 9月：DVDをみて話し合い
- 10月：持ち寄り食事会
- 11月：音楽療法
- 12月：音楽&お茶の会
- 1月：障害福祉の勉強会
- 2月：言語聴覚士リハビリ
- 3月：音楽療法

《菜の花チア》



松戸市の旭神経内科リハビリテーション病院での集団訓練を参考にして、二年前から小集団活動をしています。医療的協力は旭リハ病院から、それに加え松戸市障害福祉課、ボランティア「いちこの会」のご支援を戴きながら、皆で一分間スピーチ・体操・ミュージックベル・ゲームなどを楽しんでいます。

参加当事者や家族の声・・・

スピーチの準備をしたり、話す態度にも変化がでてきました。・他の人の話を見聞きして刺激をうけ、自分の生活にも取り入れたい、と思えるようになってきました。・支援者が各人の症状を理解しているの、笑顔が増え楽しく過ごすことができます。・家族は他の家族と親しく交流することによって、情報を得たり励ましあったりできる。

この活動に協力・支援してくださる療法士さんや学生さんを募集しています。

世話人 内木千鶴子

悩んでいます！望んでいます！

☆発症原因や年齢により、介護保険が使えない。☆リハビリをしているが、よくなっているのかどうかを知りたい。

☆就労したいがどのような訓練をどこで受けられるの？
☆高次脳機能障害を理解してもらえる作業所はあるのか？

☆親なきあとの生活はどうしたらいいのだろうか？ ☆家族の精神状態もギリギリです。相談できるところが欲しい。

連絡先 世話人：綿貫吉治（電話 FAX 04-7174-3998） yh-watanuki@jcom.home.ne.jp
ホームページ：東葛菜の花⇒検索 <http://members3jcom.home.ne.jp/toukatsu-nanohana/>

高次脳機能障害者の社会参加

VAIC-CCI コミュニティケア研究所

事業報告会 ～3年間から見てきたこと～ を開催しました！



2011年5月21日(土) 於：千葉市ハーモニープラザ

VAIC コミュニティケア研究所では、2008年度から千葉リハビリテーションセンターや千葉県と連携して「ボランティアはじめの一步事業」に取り組んでいます。毎年度末には年間総括として事業報告会を開催しています。



この事業は、社会的リハビリ段階にある当事者に、福祉施設でボランティア活動に取り組んでいただくものです。施設利用者の話し相手やレクリエーションの手伝いなど活動メニューはさまざまです。当事者がボランティア活動をする上で必要なサポートをおこなう人もボランティアでサポートボランティアと呼称しています。サポートボランティアの役割は、当事者が安心してボランティア活動ができるように個々の障害特性を理解し、当事者の活動を見守ります。合わせて活動支援者としてボランティアコーディネーター、ボランティア活動を受け入れる福祉施設の職員および医療的アドバイザーとして千葉リハビリテーションがチームを編成しともに活動します。ボランティア活動後に実施する活動の振り返りがチームのメンバー意識を高め、信頼関係も深まります。

システムを提案しました。第二部は、それを受けて「社会化するために」をテーマにパネルディスカッションをおこないました。パネラーに、ちば高次脳機能障害者と家族の会代表角田義則さん、千葉県障害福祉課精神保健福祉推進室猿田忠寿さん、千葉リハビリテーションセンターリハビリテーション療法部大塚恵美子さん、VAIC コミュニティケア研究所地域コーディネーター富永ゆみ。コーディネーターには首都大学東京大学院人間健康科学研究科教授渡邊修さんをお願いしました。

2010年度は事業に取り組んで3年。目標としてVAIC コミュニティケア研究所はボランティアコーディネートシステムのモデル化。千葉リハビリテーションセンターは当事者の参加基準づくりを掲げて活動しました。事業報告会では、第一部でこの間の実践を通して見てきたことを報告し

第二部のパネルディスカッションでは、パネラーの方々の活発な議論とともに会場から積極的な発言もありました。最後はコーディネーターの渡邊修さんのエールを含めたまとめで終わりました。

「私は、数年来、高次脳機能障害者支援として、認知リハビリテーションの方法に力を注いできました。最終的には、社会環境の中でのリハビリテーションこそが、脳の回復を早めると考えています。そういった意味で、本日の、高次脳機能障害者へのボランティア活動支援は、一つの理想のモデルを提供してくれたと思います。今後、「費用」「マンパワー」「受け入れ施設」に関する課題に関して、行政からの支援をいただきながら、制度を築き上げて欲しいと思います。」

『ユニバーサル就労』という はたらき方を考える

日 時 平成 23 年 6 月 7 日 18:45~21:00 会 場 船橋市民文化創造館

ユニバーサル就労は、障害や育児、就労ブランクがあるなど様々な理由を抱えて働く事ができない方々を対象に誰もが働きやすい「ユニバーサルな職場環境」を目指す取り組みです。当事者への仕事の紹介の流れは、支援団体との個別面談、ユニバーサル就労を進めたい団体とのワークショップを通し、その方にあった仕事内容の紹介が行われます。報酬や就労の形態を4つに分類し、短時間の就労から一般雇用まで段階的に働ける支援をしています。就労の継続支援に関しては職場内に内部就労支援部署を設け、「当事者・職場(上司)の相談、面談の実施」、「職場全体への働きかけ」、「本人・上司・外部支援団体との調整役」を役割とし、当事者のみならず上司・職場全体の三者でストレスなく働きやすい関係性を築く取り組みをしています。



21時終了と遅い時間の講演会でしたが高次脳機能障害の当事者で支援を受けつつボランティア活動を行うVAIC-CCIのメンバーの方々や引きこもりの方々への自立支援の団体など多くの方が参加しており、この取り組みへの期待の高さが伺えました。会の最後に、理事長を務める池田氏が「会社で働く＝社会で働く」と表現されていました。働くという事が障害の有無に関わらず社会参加において大きな意味合いを持つ事を改めて感じました。

高次脳機能障害支援センター 地挽

インフォメーション・おしらせ information

第7回高次脳機能障害リハビリテーション
千葉懇話会

日時 ■ 2011年9月22日(木)18:30-20:00
会場 ■ 千葉市文化センター セミナー室
内容 ■ 千葉リハ高次脳機能障害支援センターの
役割と課題ー医療的認知リハから社会適応リハ
への流れをつくるー
参加費 ■ 500円 定員 ■ 140名
問合せ ■ 千葉リハビリテーションセンター高次脳機能障害
支援センター Tel 043-291-1831(代)内 198

第8回高次脳機能障害
リハビリテーション講習会

日時 ■ 2012年1月14日(土)13:00-16:30
会場 ■ 千葉市文化センターアートホール
内容 ■ 未定
問合せ ■ 千葉リハビリテーションセンター地域連携部
Tel 043-291-1831(代)内 183



夏(Ｙ)
■夏の風物詩となっている花火大会。今年は、震災で祭りを控えていますが、日本の花火の由来は、献上花火として打ち上げられた吉原(江戸)のぼりまつりです。享保18年(1733年)コレラで多数の死者が出た世相に、8代将軍徳川吉宗が「無量無算の死者が出た大川(豊田)のこの水神祭りを催したとされます。祭りは、神事から娯楽(あそび)へと変わって、現代千葉でも花火大会がいくつかに中止となり、節電といふ今年の夏の夜はネオンが控えられ暗い世の中になっています。こんなときだからこそ、由来となった祈りの花火で暗くなった町に照らしてもらおうのが、震災で亡くなった方々の供養になるのではないのでしょうか。そう思いながら、切り絵の花火を作ってみました。昔の人の心がこの先もずっと繋がりますように祈りながら(Ｙ)

◆ 編集後記 ◆